

恥と罪の文化

日本は恥の文化である。戦後『菊と刀』で、著者のルース・ベネディクト（女史）が発表しています。

「罪」は、キリスト社会圏、「恥」は日本固有の文化です。

「罪」は教会での懺悔の文化、法律文化です。

「恥」の世界観は、人と人

の間、人間にあります。罪と恥は構造上融合しない。

震災と原発事故から5カ月がたちました。今、福島県を離れて暮らす人は何人いるでしょうか。そして、福島県に残って窓を閉めて生活している人はどれほどいるでしょうか。

全国に避難している福島の人たちがどんな思いで故郷を離れてきたのか、みなさんにわかってもらえるでしょうか。福島の子どもたちがプールに入らず、マスクをして登下校しているこの状況を安全だと言いつける政府に、私はとても疑問を感じます。

今まで法律で決まっていた数値を何十倍にも引き上げて、それが安全だと言われても、私には信じられま

せん。そんなやり方は、中学生の間でも通用しないでしょう。

福島県民よりもお金のほうが大切なのですか。

大人が勝手に作った原発でなぜ、福島の子どもたちが被曝しなくてはならない

見えない力の存在を信じられない人が多いと思います。

人はなぜに祈るのでしょうか。

シヨパンのピアノ協奏曲の旋律に

祈りを感じないでしょうか。

うか。物語、映像

を感じないのでしょうか。

人は神社仏閣を造り、祈るので

でしょうか。

「目に見えない何か」

放射能も見えません。原子力

のか。なぜつらい目にあわなくてはいけないのか。

これほどの事故が起きても、どうしてまた原発再開を目指すのか。私には全くわかりません。

このような状況で総理大臣が変わっても、よい国が作れるとは思いません。

福島の子どもたちの思いを政府の担当者に伝えるために集会を開催したのは、福島の子どもたちをつくる「子どもたちを放射能から守る

は人間が作り出した「神」ではありません。原子力に祈るので

でしょうか。

自然に対する人間の「奢り」、

傲慢な支配する征服欲が、自

然、「神」の逆鱗に触れたのです。

人間は神に近づくことはできて

も、「神」にはなれない。

見えない力が働き、スイッチが

か。

見えない力

福島ネットワーク」。メンバーの西片嘉奈子さん（33）は7月、福島市から小学生の子ども2人と山形県米沢市に避難した。子どもたちの声を政府に届けたいと思ったのは、小学3年生の長女の風ちゃん（8）の言葉がきっかけだった。

「放射能っていつなくなるの？」



入ります。

今日の日本を、「第三の敗戦」と言われています。

当時の六十数年前と、変わりません。

すべてがコピー原爆までの付録が付いています。

日本を代表紙のマスコミも全く同じです。

民族的欠陥なのか。



(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2011年9月8日（木）NO. 226

地域から明るい未来を作ろう